

箕面市行政評価・改革推進に係る意見と市の考え方

(1)平成29年度当初予算について

【委員からの意見】

- ▶財政調整基金を予算ベースで取り崩しを予定していないことは、実質的には黒字予算であり、そのことは評価できる。
- ▶臨時財政対策債を満額発行しないなかでの経常収支比率の見込みの悪化は、それだけ割り引いてみる必要があり、その説明が必要なところである。

【意見に対する市の考え方】

- ▶本市では平成22年度以降、当初予算において財政調整基金の取り崩しを行っておらず、収入の範囲内で予算を組むことができています。
- ▶また、臨時財政対策債については、ご指摘のとおり、満額発行すれば収入が増加し、財政の健全度合いを示す経常収支比率は良くなります。一方で市債残高が増加するという面もあり、発行額については慎重な判断が必要となります。今後も収支のバランスを見ながら、基金や市債に過度に依存しない規律ある財政運営を進めてまいります。

【委員からの意見】

- ▶ごみ収集や給食調理の委託が進んでおり、行革の効果が出ている。今後も民間でできることは民間に徹底的に委託していくべきである。
- ▶消防の広域化などもメリットがあるので、豊能町の消防業務受託は非常に評価できる。

【意見に対する市の考え方】

- ▶本市ではごみ収集や給食調理をはじめ、公共施設の管理運営、窓口業務など委託可能な業務について、積極的に委託化を図り、大きな行財政効果を生み出してきました。今後も、財政運営基本条例の趣旨に則り、民間が担うことができる業務は民間に委ねることを基本とし、さらなる業務改革に努めてまいります。また、事務の広域化や他市町との連携につきましても引き続き検討し、積極的に取り組んでまいります。

(2)公共施設管理業務の総合一括委託について

【委員からの意見】

- ▶公共施設管理業務の総合一括入札については、先進的な取り組みであり、他団体への範を示すという意味でも、その成果が大きく期待されているところである。
- ▶施設の維持管理経費は今後もますます嵩んでいくので、このような取り組みを進めることは非常に意味がある。

【意見に対する市の考え方】

- ▶本市では、平成24年度に公共施設管理の一括委託を導入し、5年間で約3.2億円のコスト削減効果を得ることができました。この結果に基づき、引き続き一括委託を続けてまいります。また、ご意見のとおり、今後施設の老朽化が進んでいく中で、維持管理経費の増嵩は不可避であると考えています。今後も先例に囚われることなく、あらゆる手法を検討し、効率的な施設管理に努めてまいります。

(3)債権管理機構について

【委員からの意見】

・何かを滞納する者は、ほかの税や受益者負担等についても同様であることが常であり、債権管理を部局横断的に行うことについては、たいへん意義ある試みである。

【意見に対する市の考え方】

・債権管理機構においては現在、市税と国民健康保険料を対象に徴収を行っていますが、手法やノウハウは各部局と共有を図っているところです。今後も様々な徴収の取り組みを進め、効果的なものについては債権管理機構以外の部局でも実践するなど、さらなる連携に努めてまいります。

(4)市立病院経営の現状と今後

【委員からの意見】

・公立病院については、箕面市だけでなく、他団体でも軒並み経営状態が悪化している。そのなかで、収支改善に向けて課題を明らかにしていることについては評価できる。一方、地方公営企業の独立採算の考え方には、一般会計との負担区分の考え方があり、所要の繰出しについては必ずしも否定されるものではないと思われるが、その点については、今後の経営状態を見ながら判断されるべきものとする。

【意見に対する市の考え方】

・ご指摘のとおり、公立病院の経営は非常に厳しく、箕面市立病院についても黒字化に向けて改革に取り組んでいるところです。今回、新改革プランを策定し、入院医療体制や外来治療、検査体制の充実を図り、5年後の黒字化に向けて取り組みを強化してまいります。また、これまで以上のコスト削減により一般会計負担なしで独立採算運営が成り立つよう、収支改善に努めてまいります。

【委員からの意見】

・地域の医療機関との連携が進んでいることは非常に評価できる。一方で、近隣の公立病院との連携という意味では、医師の人材交流や相互派遣などを行うことで、医師不足の解消を図るなどの取り組みを進めるべきである。

【意見に対する市の考え方】

・近隣の公立病院とはこれまでさまざまな連携を行い、医療圏域における地域医療の充実に取り組んできました。ご指摘の医師確保につきましては、近隣の病院にとっても大きな課題であり、広域的に取り組むことは有意義であることから、さらなる連携を図ってまいります。

【委員からの意見】

・行政には減価償却の考え方が浸透しておらず、建替えや施設改修等に備えた積立を行っていないケースが多く、資金の余裕もないため建て替えや改修が進まず、悪循環に陥ることが多いので注意すべきである。

【意見に対する市の考え方】

・建替えや改修に備えた積立に関しましては、病院に限らず施設整備のための基金積立を行ってきましたが、それだけですべてをまかなえるものではありません。今後、ますます施設の老朽化が進んでいく中で、計画的な施設改修や建替えが必要となりますので、将来に備えた基金積立がますます重要になるものと認識しております。